

日時： 2011年10月18日（火） 14：00～16：30

場所： 建築会館会議室

出席者： 緑川主査、岡本、越智、金子、向野、吹田、田上、竹内、多田、田中、中込、藤澤、藤田、伏見、寺田

欠席者： 井戸田、小河、笠井、河野昭彦、桑村、河野守、田川、玉井、中島、成原、西山、山田
資料：

| | | |
|-------|--|-------|
| 03-01 | 2011年度 第3回鋼構造運営委員会議事予定 | (緑川) |
| 03-02 | 2011年度 第2回鋼構造運営委員会議事録（案） | (寺田) |
| 03-03 | 2011年度 第2回 鋼構造座屈小委員会 議事録 | (竹内) |
| 03-04 | 鋼構造接合小委員会 2011年度第1回 議事録（案） | (田中) |
| 03-06 | 耐火小委員会資料 | (河野守) |
| 03-07 | 鋼構造のリユースガイドブック（案） | (藤田) |
| 03-11 | AIJ鋼構造PD（1995年以降の）主題一覧 | (緑川) |
| 03-12 | （鋼構造運営委員会関連書籍に関する）質疑回答一覧 | (多田) |
| 03-13 | シンポジウム案内「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり」 および「鋼構造関連調査 調査建物数集計」 | (緑川) |
| 03-14 | 鋼管トラス構造設計施工指針・同解説について | (越智) |
| | 理事会資料：日本建築学会 2011年度東北地方太平洋沖地震被害調査団登録一覧 （資料05、08～10 は欠番） | (緑川) |

議事

1. 前回議事録の確認（資料03-02、寺田）

- ・事前配布された議事録（案）に対する修正意見はなく、承認された。

2. 構造本委員会について（緑川）

- ・前回の運営委員会以降、構造本委員会は開催されていないため、特に報告する事項はない。次回は11月に予定されている。

3. 各小委員会報告

資料等に基づき各小委員会の活動が報告・審議された。

1) 座屈小委員会（資料03-03、竹内）

- ・今大会のPDは400部用意した資料が完売し、好評であった。
- ・9月28日に小委員会を開催し、PD意見の反映やPDで扱っていないことなどについて意見交換し、年度内に「座屈に関する諸問題2012」のドラフト原稿を作成する予定である。
- ・出版にあたり、「刊行企画書」が学会の刊行委員会で承認される必要があり、その後原稿の内容を踏まえた「刊行計画書」を作成・提出することとなる。まずは、「企画書」を提出することとする。
- ・指針でなくても、運営委員会および構造本委員会の査読は必要である。しかし、技術資料であるので建築学会HPでのパブコメ募集は不要である。
- ・出版までのSTEPをおっていくと、出版は2013年度4～5月になりそう。タイトルは「座屈に関する諸問題2013」か。

2) 接合小委員会（資料03-04、田中）

- ・8月31日に査読対応小委員会を開催した。それを受け、10月17日に運営委員会査読の西山委員、多賀前委員に修正原稿および査読回答書を送付した。
- ・修正原稿では、人によって受け取り方が違うので「全強接合」の用語は使わないこととし、SN材についてはA、B、C材の区別を明確にした。
- ・改定版出版講習会の日にちは既に決定した。東京：3月6日、大阪：3月12日、名古屋：3月14日。
- ・出版、講習会までのスケジュールがきわめてタイトだが、ぜひよろしく（緑川主査）。

(補足) その後、事務局に確認したところ、11/29の構造本委員会までに査読を完了し、その場で査読報告の承認を受ける必要があるとの説明があった。

3) 制振小委員会 (金子)

- ・ 前回の運営委員会のあと、WGは開催されているが小委員会は持たれていない。
- ・ 今週21日に小委員会が開催される予定であり、その際には出版に向けた企画書および計画書の準備を検討する。
- ・ 小委員会傘下のWGについて、延長申請をしている。
- ・ 次回運営委員会での重点審議は、「鋼構造制振設計指針」とする。

4) 耐火小委員会 (資料03-06, 河野守)

- ・ 河野主査が運営委員会に間に合わなかったため、資料のみ。

5) 環境小委員会 (資料03-07, 藤田)

- ・ 小委員会では、鋼構造の環境負荷低減策として、リユース、リデュース、リサイクルのうちリユースに着目して活動している。
- ・ 資料03-07は、技術資料として小委員会がまとめようとしている鋼構造のリユースガイドブック(案)の目次である。
- ・ 小委員会の詳細は、「重点審議」にてのちほど審議する。

6) 素材小委員会

- ・ 前回の運営委員会以降、小委員会は開催されていない。
- ・ 現在、アンケートの集計、まとめ、データの過不足等を調査検討している。

4. 重点審議「環境小委員会の状況について」(藤田)

重点審議として、環境小委員会の状況、鋼構造リユースガイドライン(案)がプロジェクトにより報告され、意見交換された。主な意見は下記の通り。

- ・ 部材の素性、ミルシートに記載される力学特性、履歴などを部材に付随させたICタグで管理することも考えられるが、鋼構造部材よりもICタグの寿命が短い可能性があり課題である。
- ・ リユースガイドラインは、既にある構造体・部材と今後新築される構造体の両者を対象としているが、社会的に大きなニーズは、既存構造体の性能評価であろう。部材リユースに限定するのではなく、「既存構造体、部材の性能評価」も視野に入れると、ガイドブックの展開先が広がる。例えば、耐震診断、耐震改修にあたっては強いニーズがある。
- ・ 非破壊での既存部材の性能評価手法の開発は大きな課題である。
- ・ ガイドブックで紹介される既存例は、部材リユースではなく構造体の丸ごとリユース(移築)の例である。今後も部材のみのリユースではなく構造体の丸ごとリユースの例が多いのでは。
- ・ リユース(解体)にあたって、高力ボルト接合部は比較的簡単に解体ができる。しかし、スラブ付きの梁の解体性の向上は課題である。
- ・ 新たな建物へのリユース部材の使用については、法的に想定されていない。しかし、法律にこだわらず建築学会のスタンスを示すことが大切である。
- ・ 既存建物、部材の再利用を考えた計算規準整備なども必要ではないか。
- ・ リユース対象は部材に限定せず、構造体など広くとらえるべきである。
- ・ ここでの意見なども踏まえ、小委員会でさらに検討してください。

5. 2012年度大会PD案について(資料03-11)

- ・ 2012年度大会PDに対する委員からの事前の提案はなかった。
- ・ 議論の結果、次年度PDは、環境小委員会担当(小委員会主査:藤田委員)とし、リユースガイドブック(案)とすることとなった。
- ・ PDテーマ案については、今週中に緑川主査まで連絡のこと。

6. 学会図書への質疑回答の報告(資料03-12, 多田)

- ・ 会員からの質疑については、適宜対応している。未対応案件については、担当の小委員会で対応のこと。

7. 「鋼管トラス構造設計施工指針・同解説」について（資料03-14, 越智）

越智委員より、鋼管トラス構造指針の改定に関する提案があった。その骨子は下記の通り。

- ・現在の鋼管トラス構造指針（2002）は、前のIIWのrecommendation（1989）を基本として書かれている。
- ・最近、IIW（2009）とCIDECT（2008, 2009）の改訂があり、その内容はDraft ISO standardとなり、継続して検討中である。
- ・その他、冷間成形鋼管に関する設計法など、諸外国で検討中である。
- ・鋼管トラス構造指針の改定にあたっては、上記の検討内容を踏まえる必要がある。現段階ではまだ流動的であるので、しばし静観とする。
- ・新たな情報があれば、再度紹介をお願いします（緑川主査）。

8. 地震被害調査について（資料03-13, 緑川）

1) 速報英語概要版，東日本大震災国際シンポジウム（2012年3月3・4日）

- ・災害委員会から英語版作成の依頼があり、主査・幹事で対応している。11月末に提出する予定。
- ・英語版報告書を基に国際シンポジウムに投稿するよう災害委員会から勧められている。著者は、運営委員会名か個人名か、確認の上投稿することとする。

2) AIJシンポジウム「東日本大震災からの教訓，これからの新しい国づくり」（2012年3月1・2日）

- ・本年11月にエントリーし，2012年1月10日が論文締切。各調査チーム，個人レベルでの対応のほど，よろしく願いたい。

3) 調査建物数の集計，今後の活動について

- ・調査棟数，調査団数は資料03-13および「理事会資料：日本建築学会 2011年度東北地方太平洋沖地震被害調査団登録一覧」に示す通りである。ただし，理事会資料に記載されている4月の調査回数が，鋼構造運営委員会（8）と文教施設本委員会（1）が逆になっている可能性がある。
- ・今後，建築学会としてまとめる最終報告書については，まずは主査・幹事で対応することとするが，各調査チームにおいては，それぞれ調査結果の整理をお願いする。
- ・阪神淡路大震災の調査報告書は，鉄骨構造全体として約200頁であり，そのなかで調査チーム（地域）ごとに執筆した。今回も同様に，調査チーム（地域）ごとにまとめるのがやりやすい。ただし，体育館などは，文教施設調査やシェル空間構造チームと重複する可能性もあり，調整が必要であろう。
- ・過去報告書では津波被害は扱っていなかったが，今回は津波被害に対する記述も必要であろう。

9. その他（運営委員会後の追加報告）

- ・10/11に行われた各種合成構造設計指針の既刊本講習会では71名の参加者があった。

■次回（2011年度第4回），次々回（2011年度第5回）の鋼構造運営委員会

それぞれ，各委員の都合をメールにて確認し決定する。

次回は2011年12月，次々回は2012年3月を予定

（追記）メールにて委員の都合を確認したところ，

次回：12月27日（火）14:00～17:00

次々回：3月23日（金）14:00～17:00

となった。

回次の重点審議は，制振小委員会「鋼構造制振設計指針」とする。

以上（記録：寺田）